

【全体概要】

指宿地域の実えんどうは県内1位の産地であるが、スナップえんどうの消費拡大により、実えんどうからスナップえんどうへの品目転換が急激に進んでおり、生産面積は減少している。このため、「まめこぞう」の生産安定技術普及により、実えんどうの面積減少を食い止め、産地の育成を図る。

新品種・新技術等の概要

○新品種

品種名：「まめこぞう」 品種登録：2016年3月

特性等：①早期多収 ②食味が良い



名前の由来

「ま」んまるで
「め」っちゃ甘い
「こ」どもも大好き
うまい「ぞう」

○新技術

点滴かん水技術（露地）

干ばつ対策・かん水の省力化等によって安定的な生産を行い、栽培面積の維持につなげる。

主な取組内容

1 実証試験

○施肥方法及び施肥管理技術の確立

- ・点滴チューブを活用した施肥及びかん水技術の検討

○霜害軽減対策技術の確立

- ・不織布水平張りの省力化検討

○吸肥特性の解明

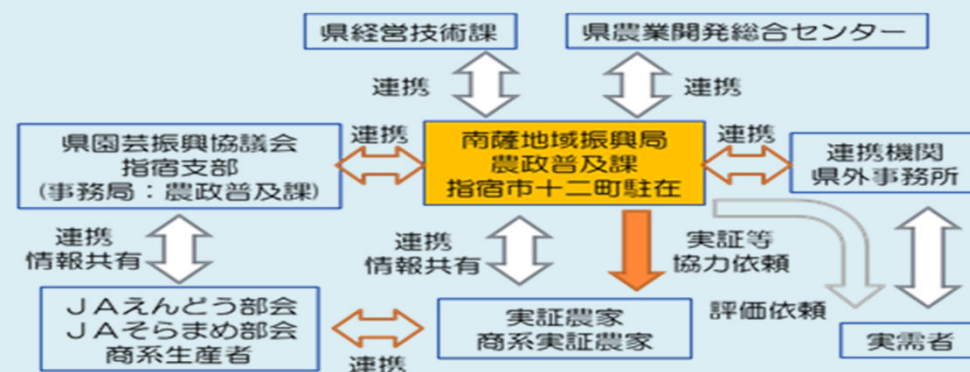
○自動点滴かん水技術の検討

○基肥減肥の検討

2 実需者ニーズ調査及び市場調査について

3 「まめこぞう」の栄養成分分析について

実施体制図



実績と今後の展開

【実績】

- 1 「まめこぞう」栽培面積 ⇒ R2/9.0ha R3/9.5ha
点滴かん水導入面積 ⇒ R2/40a R3/40a
点滴かん水による増収効果 ⇒ R2/6～12%増収 R3/7～31%増収
(実証農家 対照区と点滴かん水実証区の収量比)

2 実証結果の概要

- ①点滴チューブ活用で、かん水管理（自動化を含む）及び施肥管理（減肥）を改善
- ②霜害軽減対策である不織布の水平張り技術の省力化では、展張収納作業時間を94%削減
- ③「まめこぞう」の肥料吸収量は、窒素>カリウム>リン酸>マグネシウムで、品種やかん水の有無による差はなし

3 実需者ニーズ調査結果（R4.2 対象 市場関係者 6件）

食味の良さについては認識があり、取り扱い量は現状維持か増やす見込み

4 栄養成分分析結果

既存品種「スーパーグリーン」との栄養成分比較では、Brix値とORAC値で優位性あり

【今後の展開】

- 1 水管理マニュアルを作成し、研修会等で生産者へ技術を波及
- 2 点滴かん水チューブを活用することで、収量アップにつながる事例を精査し、技術を波及
- 3 実えんどう「まめこぞう」だけではなく、スナップえんどうなどの他の豆類での実証・検討
- 4 品種の特性を整理し、それをアピールすることで消費拡大につなげる